

済生会福岡総合病院におけるホスアプレピタント末梢静脈投与 による注射部位反応のリスク因子解析

選択的 NK1 受容体拮抗薬である経口剤アプレピタントおよび注射用製剤ホスアプレピタントは高度催吐性の抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐に対して非常に有効な薬剤であります。現在、がん化学療法における高度催吐性リスクレジメン、あるいは一部の中程度催吐性リスクレジメンの急性および遅発性の悪心、嘔吐に対して、セロニン受容体拮抗薬・デキサメタゾンとの 3 剤併用療法が推奨されています。済生会福岡総合病院ではアドヒアランス向上のため 2012 年 4 月より登録レジメンのアプレピタントをホスアプレピタントへ全面切り替えをおこないました。しかし、変更後ホスアプレピタントによる注射部位反応を多く経験することとなりました。

ホスアプレピタント投与時の注射部位反応についての報告は幾つかありますが、投与時のホスアプレピタント濃度、リスク因子に関する情報は少ないので、ホスアプレピタント投与濃度と注射部位反応頻度の関連性、注射部位反応のリスク因子を調査し、高リスク群への対策に寄与する情報を得ることを本研究の目的とします。

本研究は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会（臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会）においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。